

服薬指導に関する看護婦の意識調査

—勉強会および、薬剤師との紙面上での情報交換を試みて—

B棟7階

○小 西 昌 子 巽 ちさと
奥 中 宣 江

はじめに

病院における薬剤師は、従来薬剤部内で「調剤」業務を行っていたが、近年臨床の場で活動する機会が増えてきた。当病棟においても、4年前より薬剤師が直接患者に服薬指導を行うようになってきている。しかし看護婦はあまり意識しておらず、薬剤師と看護婦のコミュニケーションが不足していると感じていた。そこで私たち看護婦は、①薬剤師が行っている服薬指導の内容を知ること、②薬剤師と情報を共有すること、を目的に紙面上での情報交換を試みた。その結果をここに報告する

方法

- 1) 期間：平成13年7月5日～平成13年9月30日
- 2) 対象：当病棟に勤務する看護婦20名（婦長、研究メンバーを除く）
- 3) 方法：
 - ① 服薬指導に関する文献を用い、独自のアンケートを作成した。（表1）
回答には1よく（4点）、2たいてい（3点）、3あまり（2点）、4まったく（1点）の4段階評価を用い、一部自由記載とした。
 - ② 平成13年8月22日アンケートを配布し、平成13年8月27日に回収した。（前のアンケートとする）
 - ③ 平成13年8月28日、薬剤師による服薬指導の勉強会を企画、実施した。（表2）
 - ④ 勉強会の様子をビデオ撮影し、出席できなかった看護婦は後日ビデオにて学習した。
 - ⑤ 服薬指導を受けている患者を無作為に6名選択し、フローシート2（以後情報交換用紙とし、これは記録とみなさない）を用い、薬剤師と看護婦がそれぞれ2週間記載した。（表3）
 - ⑥ 平成13年9月7日アンケートを配布し、平成13年9月12日回収した。（後のアンケートとする）

なお、アンケートはそれぞれ無記名で行い、回収率は前後とも100%であった。前後のアンケートにおいて、当病棟における看護婦の服薬指導に関する意識がどのように変化しているか比較した。

結果

「薬剤師が病棟で服薬指導を行っていること知っていますか」という質問において、前のアンケートでは、知っていると回答した人は19人(95%)、まったく知らないと回答した人は1人(5%)で、平均3.55点であった。後のアンケートでは、知っていると回答した人はよく・たいていで全員(100%)となり、平均3.75点であった(図1)。「服薬指導の内容を知っていますか」という質問においては、前のアンケートでは知っていると回答した人は1人(5%)、あまり知らない、まったく知らないと回答した人は19人(95%)で、平均2.4点であった。後のアンケートでは、知っていると回答した人は、よく・たいていで15人(75%)、平均3.0点となった(図2)。「服薬指導後の情報交換用紙を見たことがありますか」という質問では、服薬指導後のメモを見たことがあると回答した人は、よく・たいていで4人(20%)、平均1.8点だったが、後のアンケートでは、ほとんどの人が情報交換用紙を見たことがあると回答し、平均3.4点となった(図3)。また実際に情報交換用紙に記載した人は半数以上になった。

情報交換用紙には、薬剤師は服用方法、用量、薬効など説明した内容、および患者の服薬状況や、残薬のチェックを記載した。看護婦は、毎日の残薬の確認、薬剤師の行った指導に対する患者の反応、内服に対する理解度、退院に向けた自己管理の方法について記載した(表4)。「看護婦が患者から質問された時の対応」についての質問では、薬剤師に相談したと回答した人が前のアンケートでは1人(5%)だったが、後のアンケートでは6人(30%)になった(表5)。また、「薬剤師と服薬指導を行っている患者について話し合ったことがありますか」という質問に対しては、話し合ったことがあると答えた人は前のアンケートでは1人(5%)で、平均1.65点だったが、後のアンケートでは6人(30%)、平均1.9点となった(図4)。

受け持ち患者についての質問では、「自己管理を行っている患者の残薬を確認したことがありますか」という質問に対し、あると回答したのは前のアンケートでは2人(10%)で平均1.84点であったが、後のアンケートでは6人(30%)に増え、平均2.21点となった(図5)。「退院時の自己管理に向けて何か方法を考えていますか」という質問に対しては、前のアンケートでは記載が少なかったが、後のアンケートでは表6のような記載が増えた。また、「勉強会および情報交換用紙の実施」について自由に意見を求めたところ、「患者が薬に対してどのように考えているか関心を持つようになった」、「もっと積極的に薬剤師と情報交換をしていくことが必要だと思う」などの意見が得られた。

前後のアンケートにおいて、年齢、経験年数による差はみとめなかった。

考察

薬剤師による服薬指導の勉強会を行い、薬剤師の働き、服薬指導の内容を理解したことが、アンケートの結果からわかる(図1、2)。また、情報交換用紙による情報交換を試みた結果、アンケートの結果、図5・表6のように、受け持ち患者の服薬状況を見直す機会となり、看護婦それぞれが内服治療に関する知識を高める結果となった。

自己管理へ向けても、看護婦独自で配薬の方法を工夫していたが、後のアンケートで「薬剤師に相談した」という回答が増えたことから、医療チーム内での情報交換を積極的に行いたいと意識するようになってきていると考える。

薬剤師が服薬指導の際に「うまくいかないと感じる事」の中に、「医師と看護婦とのコミュニケーション不足」もあると、1994年のウエルケア研究所における服薬指導に関する調査で発表されている。病院・療養所48施設、310名の薬剤師のうち、180人が「服薬指導がうまくいかない」と感じており、その理由として「医師や看護婦との説明が喰い違っていないか」「医師の処方意図が分からない」「病名が告知されていない時の服薬指導が難しい」と21人が回答し、コミュニケーション不足を共通の問題と感じている。¹⁾「チーム医療においては医師、看護婦などと薬剤師の関係もコミュニケーションが必要であり、お互いの信頼関係はそこから生まれる」²⁾と塩川らが述べているように、医療チーム内のコミュニケーションが重要である。そのためにはお互いの職種を理解しあい、情報を共有することにより、専門性を生かしたチームワークが必要となってくると考える。

今回の研究ではフローシート2を情報交換用紙として使用し、紙面上での情報交換を行ったが、勉強会前後での看護婦の行動としては、著明な差があらわれなかった。その理由として、勉強会後におけるアンケート調査までの期間が短かったこと、実際に記録を残す患者が少なかったため、日々の担当した患者の中に対象患者がいなかったことが考えられる。しかし今後の課題として、①担当薬剤師を明示し、主治医、受け持ち看護婦がコミュニケーションを図れるようにする、②服薬指導を含めた情報を記録として残しておく必要がある、③随時勉強会を企画する、④医師薬剤師とともにカンファレンスを行う、などの回答が得られ、看護婦の意識として服薬指導に関する関心が高まったことがわかった。

結論

今回の研究では、服薬指導に関する看護婦の意識調査をした結果、次のことがわかった。

- ① 勉強会を通して服薬指導の内容が理解できた。
- ② 服薬指導に対する意識が高まった。
- ③ 医療チーム内でのコミュニケーションが重要である。

おわりに

現在、当院では服薬指導係が6人と少なく、今後チーム医療の一員として、臨床薬剤師の必要性が理解され認められれば、より質の高いチーム医療として発展していくものと思われる。

今回この研究をまとめるにあたり、ご協力いただいた院内薬剤部に感謝いたします。

引用文献

- 1) 宗像 恒次、後藤 恵子：服薬指導の為のカウンセリングテクニック，株式会社ミクス，

14 - 16, 1995.

- 2) 塩川 満：臨床薬剤師がベッドサイドに出向く理由，月間ナーシング，18（9），78，1998.

表1. アンケートの内容

薬剤師が行っている服薬指導について
 看護師と薬剤師の情報交換と情報の共有について
 看護師が行っている薬の説明について
 患者さんから質問される内容とその対応について
 受持ち患者さんの服薬状況、看護計画とその実践について
 勉強会及び記録の実施後の意識の変化について

表3. 情報交換用紙

氏名 殿 《服薬指導1週目》 (フローシート)2

月日	薬剤師	看護師	内容確認
月 日 (前日指導時)			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

奈良県立医科大学附属病院

表2. 薬剤師による服薬指導の勉強会の内容

- 薬剤投与の意義
- 服用方法、使用方法
- 薬品名、薬効
- 服用指導に関連した日常生活上の注意
- 薬の保管上の注意
- 服薬状況の確認
- 飲み忘れ時の注意
- 薬剤管理指導料

質問1. 薬剤師が病棟で服薬指導を行っているのを知っていますか？

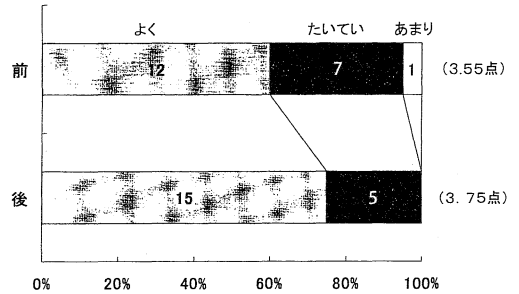


図1. アンケート結果 n=20人

質問2. 服薬指導の内容を知っていますか？

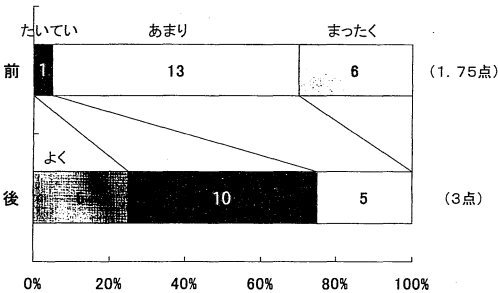


図2. アンケート結果 n=20人

質問3. 服薬指導後の情報交換用紙を見たことがありますか？

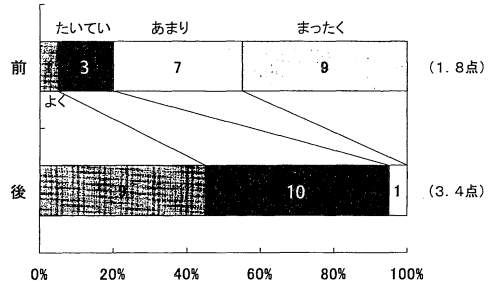


図3. アンケート結果 n=20人

表4. 情報交換用紙記入例

氏名 医大 花子 殿

《服薬指導1週目》

(フロッピー)2

月日	薬剤師	看護婦	内服確認
8月30日	DDP→PTP		
	薬の名称、用法、用量指導	「薬について知らないこともあったし、勉強もしていたから聞いてよかった」といわれる	
	リニタラブについてアミロロンとアルブ	服薬については問題ないと思われる。	
	必要を理解していただく		
	服用は問題ないと思われる		
月 日			
月 日			

表5. 患者から質問されたときの対応(複数回答)

	前のアンケート	後のアンケート
薬剤師に相談した	・麻薬、化学療法薬については、説明が難しかったので医師及び薬剤師ともに相談し橋渡し役をした (1人)	・病棟にいるのを見かけた ・退院前の患者だったので、相談した ・指導内容を確認した ・指導に同席させてもらった (6人)

質問4. 薬剤師と服薬指導を行っている患者について話し合ったことがありますか？

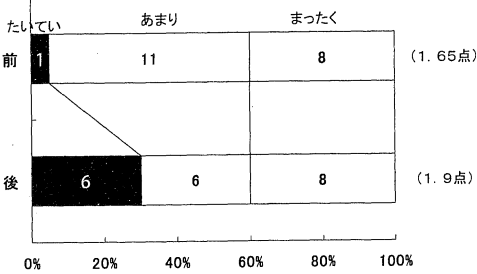


図4. アンケート結果 n=20人

質問5. 自己管理している患者の残薬を確認したことがありますか？

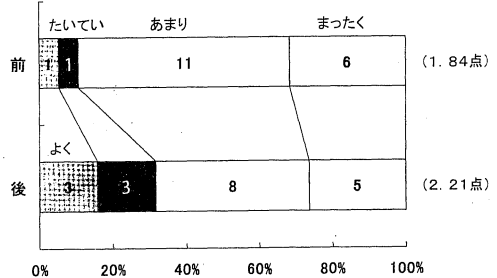


図5. アンケート結果 n=19人

表6. 服薬指導に関する勉強会及び記録の実施後の看護婦の意識の変化についての自由記載

- ・ 服薬指導の内容が理解でき、看護婦自身が内服に対する知識を見直す機会になった
- ・ 自己管理へ向けて医師、薬剤師へも相談し、患者にとってもっとも良いと思われる方法を考えるようになった
- ・ 薬剤師と積極的に情報交換をしてゆきたい